

## I 1月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	30	40	20
平年並	40	40	40
低い(少ない)	30	20	40

(平成26年12月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	17.0	19.5	14.6	107.0	94.2
宮古群島(宮古島)	18.0	20.4	16.0	130.8	86.4
八重山群島(石垣島)	18.6	21.2	16.5	130.6	85.9

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 1月の発生予報概要

作物	病虫害名	発生量		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	カンシャシクイハマキ	並	並	多
	イネヨトウ	並	—	多
シークワサー	かいよう病	やや多	—	—
	そうか病	やや多	—	—
タンカン	かいよう病	多	—	—
キャベツ	コナガ	並	—	—
かぼちゃ	うどんこ病	並	やや多	並
	タバココナジラミ	並	—	—
	ハモグリバエ類	—	多	—
きゅうり(施設)	うどんこ病	やや多	—	—
にがうり(施設)	うどんこ病	—	並	—
	斑点病	並	—	—
トマト	トマト黄化葉巻病	やや多	—	—
小ぎく (彼岸出荷用)	アザミウマ類	並	—	—

### Ⅲ その他注意すべき病害虫等

※本文中では○(白丸)にて表記

作物	病害虫名	対象地域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	イネヨトウ		○	
	コガネムシ類幼虫 (アオドウガネ・ケブカアカチャコガネ)		○	
マンゴー	チャノキイロアザミウマ		○	
キャベツ	菌核病	○		
かぼちゃ	モザイク病	○		
きゅうり(施設)	べと病	○		
	ミナミキイロアザミウマ	○		
小ぎく (彼岸出荷用)	白さび病	○		

#### ☆ 予報の見方 ☆

「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にしてください。

#### ◇ 一般的な病害虫防除対策について ◇

- a 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- b 薬剤抵抗性害虫や薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布に努める。
- c 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。
- d 防除効果を高めるため、むらのないよう丁寧に散布する。
- e 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- f 多湿にならないよう、圃場の排水をよくする。
- g 病原菌は雨水や風で伝搬されるので、ビニールの破れ等を補修する。
- h 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

◆予報の見方◆

1. 予報の構成

- 1) 「注意すべき病害虫」：向こう1か月の間に多発生が懸念され警戒すべき病害虫や、例年その月に発生が問題となる病害虫
- 2) 「その他注意すべき病害虫等」：「注意すべき病害虫」ほどではないが、例年より発生が多い等注意を要する病害虫。本文中では、「○(白丸)」で表記されます。
- 3) 発生程度：向こう1か月の間に予想される発生量を示します。
- 4) 「コラム」：発生量に関係なく、季節的に防除を要する病害虫。
- 5) 予報の根拠：予報を推定した根拠を記載します。圃場巡回調査やフェロモントラップ等への誘殺状況等に基づく現在の発生状況、予想される気象条件が対象病害虫に及ぼす影響等について記載しています。
- 6) グラフ：予報根拠となる病害虫の発生推移等について示します。今年値を実線●(黒丸)で、平年値を…(破線)で示します。平年値からの工(縦線)は平年並の範囲を表します。
- 7) <防除上注意すべき事項>：防除を行う際に、注意すべき事項等について簡潔に記載しています。

2. 用語の基準とその使用法

1) 「発生量」の見方

平年値：過去5年～10年間の発生量の平均値

例年値：過去3年～4年間の発生量の平均値

発生量：原則として平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は高くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

発生量	内容
平年並	平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや多・やや少	平年並の外側20%の度数の入る幅
多・少	上記3者の外側10%の度数の入る幅